

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200079		
法人名	医療法人豊寿会		
事業所名	ブルーホームふれあい園	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県高崎町東霧島752番地3		
自己評価作成日	令和元年7月22日	評価結果市町村受理日	令和元年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和元年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中で広い庭を散歩できたり、外での食事や茶話会が出来る環境にある。医療法人の経営のため医師がほぼ毎日来園して健康管理に努めている。「最期まで」という思いでターミナルケアを行い、ここでの看取りも多く経験している。家族会も協力的で、奉仕作業もして下さる関係を構築出来ている。この家族会は医師との面談、食事会ととても参加率が高く、良い雰囲気の中で行われている。外には畑もあり、入所の方や家族の応援で野菜を収穫して食卓に上っている。認知症介護指導者のいる施設として認知症の勉強会などは定期的に行い、今後は企業が実務者研修を行う施設として、登録を申請中である。少しでも介護福祉士を育てていこうにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアに対して、常に学ぶ姿勢をもって、学んだことを実行し、より良いケアを目指して、施設長、管理者が職員と一緒に試行錯誤しながら取り組んでいる。入居者一人ひとりの心身状態、有する力に合わせた細やかなケアを実施し、できることは続けられるよう働きかけ、役割をもって暮らせるよう支援している。法人が経営している医療機関と密に連携をとることで、本人、家族の希望に応じて看取りまでケアした事例も多く、本人が安心して過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	11年経営する中で理念も変えたがその思いは職員に伝えている。ほぼ実践できている。	時代に応じた理念をつくり、玄関やホール内に掲示し、日々のケアの中で理念に沿っているか振り返りながら、理念に込めた思いを共有できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で地域密着と言っても範囲が広く、利用者が地域の中での交流は難しいが、民生委員さんなどは交流がある。100歳体操などに積極的に参加をしていきたい。	施設は所在地区内の交流の機会が無い中で、隣の地区を含めた地域の「こけない体操」に参加したり、加工センターや梅園に出かけ地域との交流に努めている。	最も身近な地域に協力者ができるよう働きかけを続け、日常的な交流が進み、顔が見える関係のなかで、災害時等もお互いに協力し合えるようになることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談などうたっているが、地域は屋間人があまりいなくて相談はあまりない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や話し合いを通じて意見を参考にして地域の行事や集まりなどに参加出来ている。	行事報告や研修で学んだことを報告し、参加者からは意見や要望、地域の情報等を出してもらい、地域の行事参加等に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の方も会議に出席して頂き、役場の情報や苦労していることなど話す事でヒントを得たり、この事業所の特徴を話す事で理解をもらっている。この運営の仕方も話して特徴を伝えている。	運営推進会議や地域ブロック内のケアマネジャー会等で、市や地域包括支援センターの担当者に事業所の状況等を伝える機会を持ち、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束はしない方向であるが、医療で点滴など仕方がないときは家族に同意を得て行っている。身体拘束は理事が県からの依頼で伝達講習を行っているのでもっと職員に根付いている。	3か月に1回対策検討委員会を開催し、正しい理解と身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の具体的な行為を理解したうえで、やむを得ないときは、家族の同意を得たうえで、理由等の記録をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止には毎月委員会を設け一か月に一回話し合いを行って周知をして、虐待の案件は起こっていない。職員の方が叩かれたりする方が多い。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてはケアマネジャー会に参加して研修を何度も受けており、実際に家族に話して利用された実績もある。日常生活自立支援の趣旨は理解してここでの生活が本人により良いものになるように努力している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は必ず管理者が行い、精通している者が行い疑問にも対応できるシステムをとっている。両者が納得いく方で契約にこぎ着けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は毎月手紙を書くことで信頼関係を構築して、言える関係を築いている。また、家族の要望はできるだけ検討して満足して頂けるように話し合いを行っている。年一回の面接も行っている。		年1回の家族会や法人代表による家族との面談で、要望や意見を聞く機会を設けている。普段の面会時の職員との会話の中で、何でも言える関係を築くよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のミーティングを行い、意見交換を行っている。毎月の行事など意見が出せる環境で反映できている。今後は評価方法をとることも検討している。		施設長や管理者は、職員が働きやすい環境を整えるため、提案や要望を話せる関係を築くよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は非常に一生懸命やってくれている。時々評価を行い、給与は反映させているが、職員数が少ない事も十分な休暇が取れていないのではと思う。喫煙場所も設けていない。外国人受け入れも検討中である			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に四回ほど外部講師を招き研修を行っている。年間の研修予定は管理者が管理して参加を促している。人手不足から、外部の研修は全員は参加出来ていない。ミニ勉強会は毎月行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー会やグループホームとの交流で遠足などを行っている。また、他の事業所を招いて焼き肉大会などを行って交流をしている。情報を交換している。個人同士の連携はしてない様子である。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がここに来て少しでも笑顔で生活してくれることを基本に困っていることの分析などは一ヶ月のミーティング時に詳しく職員との意見交換している。本人が家に帰りたい要望は常にある気持ちも大切にしながら関係作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を確認しながらプランの作成や相談できる関係を作っている。退所されて5年も経つのに色々果物を持ってきてくださる家族もいる。家族会も行っている。ボランティアも行ってくださる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症があると診断されて入所されるので、専門性を活かしたケアを行っているが、本人が他の疾患や金銭面で困ることがあれば、相談に応じ、サービスの変更も対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの性格や趣味など多彩な人たちがいるが、認知症を患っている方として共通認識のもと一緒に生活する中で、本人の出来る事を伸ばしていく関係性を築いている。野菜づくりなどをやっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ともしれば分からないのでお任せしますと言われる家族もあるが、毎月のスタッフのからの手紙や園便りで本人の様子を伝え進行していく中でも家族の位置は大切な部分なので関係性を築く事を心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠いところから来ている人もいるが、近くの人もある。近くの方は帰宅したい要求で混乱するのでいけない。また、金銭を持たない人が多く、買い物もジュースやパンなどになっている。	同級生との外食や家族との年忌や墓参り等の機会を作り、馴染みの美容室の利用や自宅周辺へのドライブを支援するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は同じ調理作業を通して会話が弾む場面などがある。認知症の進行具合でうまくコミュニケーションをとれない方もいるが、特に争いなどはない。一緒にゲームなど楽しんでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えがこの何年もない。以前他の施設に行かれた場合などサマリーを詳しく書き、医師も紹介状を書かれている。家族が納得され、相談には応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向は帰りたい意向が多いが、現実的には難しい面がある。本人の一瞬の笑顔のために本人の思いを聞きながら、一緒に暮らしていることを優先している。	言葉だけでなく、態度や目の動き等を観察し、本人の意向や希望を把握することに努め、その時々のお気持ちに寄り添って、待つことも意識しながら支援することに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や暮らし方は概ね把握している。センター方式のアセスメントは本人の力の発揮出来る部分のアセスメントになっているので把握しやすい。出来ること、できない事の把握につとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	園の日課表はあるが、天気の良い日は外にでて思い思いでお茶を飲んだり、話したりして、いける環境作り心掛けています。一人ひとりが自由な中で生活出来る様に支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはスタッフの協力なしには課題設定も出来ないもので、情報の共有の意味で聞き取りなど行いディスカッションして計画に結びつけている。また、絵に書いた餅にならない様に実施表も独自作成して計画の実効性を高めている。	本人、家族の意向をもとにスタッフによる話し合いや日々の記録、事業所独自の計画実施表の内容で、介護計画にそったケアができていないか評価し、必要に応じた介護計画の見直し、作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートはもちろん、気づきがすぐ分かる様に経時に沿った記録の中に本人の気づきを書く場所をとってあり、計画に生かせるようにしてある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特徴を生かしながら家族の意向に従いながら、支援している。その時に必要があれば、支援の仕方を検討している。他の医療機関などの受診支援も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや催しなどの資源を把握して、参加することで本人たちの喜びになっている。花火大会などは夜間の確保が難しく実現できてない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は毎日訪問されるので、その時の症状を報告することで予防や重症にならないようにしている。家族への報告も出来ている。	かかりつけ医は、本人、家族の希望により決めている。代表者の医師が週5日訪問し入居者の普段の状態を把握し、専門医受診時には情報提供を行い適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と医院の看護師が一人ひとり把握していることで相談が出来やすい環境にある。異常があれば、ここに来てくれる環境なので心強く、また相談もしやすい。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師が入院先を紹介の形をとっているので、相手方の方も必ず情報をいただける、入院は衣類はここで洗濯をして差し上げているので訪問の回数も多く、相手の医療関係者ともコミュニケーションを図ることが出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向は入所段階から聞き取りをするが、決して強制にならない様に意向を聞くときは1年に一回にしている。事業所では酸素や点滴は出来るが、出来ない事もあるので、出来る事、出来ない事などをしっかり説明して納得をしていただく。	利用開始時に看取りについて方針等を本人家族に説明し意向確認をした後、毎年、終末期の対応の確認を行っており、1年間に複数の看取りの実績もある。看取りの対応が必要な時は、オンコール(看護師との連絡)態勢が取られ、昼夜関係なく、不安なくケアが行われるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは理事が看護師の資格をもっているため説明を行い心マッサージ、AEDなどの使用方法など定期的に講習をおこなっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーが入っていることで安心感はあるが、避難訓練は年二回行っている。敷地が広いので、避難場所の確保は出来ている。水や食料の確保も出来ている。	年2回、昼間と夜間帯を想定した防災訓練が、利用者参加で行われている。自動通報装置とスプリンクラーが設置され、非常食の備蓄もあり災害時に備えた体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には名字で呼ぶことを心がけ、親しき仲にも礼儀を守るようにしている。部屋を尋ねる時にはノックして入るようにしている。		反応がいい名前の呼び方や丁寧語を使うことを心がけ、生活歴を大事にした会話等で、一人ひとりの思いや人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一応園で一日のスケジュール確認を行う。強制にならない様にしている、スケジュールを組まないと動かない方々が多いので、筋力低下に気を付ける意味では一日の過ごすテーマを決めたりして参加を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	参加は自由にしてはいるが、外の園庭に出る人、中でお手伝いをされる方など一人ひとりのペースで動かれている。一緒にゲームも楽しんでいたりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の時間を設けたり、外出の時には本人に洋服を選んでもらうようにしている。TPOの事を心がけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備が出来る人は一緒にやってもらい、盛り付けや皮むきなどを手伝うことで、主婦として長年携わってきたことの力を発揮していただいている。		季節のものや菜園で採れた野菜を使った献立で、匂を感じられる食事は、ほとんど残すこともない。職員の見守りの中、食器洗いやおしぼりタオルたたみなどできることを手伝ってもらい、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足にならない様に摂取出来る様に状態には気を付け、完全に食べる事が出来るように支援している。時には補助食品も検討したりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔衛生は必ず行い、口腔ケアの講習会にも参加して、適切な器具などの情報を入れることにより、口腔ケアの適切なケアが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ外しを推薦してきたが、今もその方針は変わっていないが、スタッフの負担が大きく、2名の退職があり、おむつ外しの難しさを感じている。一人で出来る人が少なく、スタッフはトイレ介助に多大な労力を費やしている。		日中は排せつチェックシートで排せつパターンを把握して、トイレでの排せつとお湯で陰部洗浄を行うことで、排せつ後の清涼感が保てるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は本人にとっても苦しいので、水分や乳製品を多くとり運動へ誘導している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はどちらかの風呂が沸いているので、基本的には毎日入る事が出来る環境にしてある。本人が自分で入浴出来る人は自由な時間に入浴出来る様にしてある。介助の人は時間入浴になってしまう。	週3回を基本に、日中のどの時間でも入れられるようにしている。介助を必要とする人は、空いている時間を利用して入浴している。一人ひとりの希望に合わせて自由に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が希望するときは昼寝など行う。布団も天気の良い日には交互に干して気持ちよく眠れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は何度も工夫を重ねた結果、声を出して確認やそれぞれの名前を書いたシートなどの工夫を行い誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事をスタッフが担当して、遠足や外出、外食などを計画して実行している。本人たちが何を食べたいか、希望もとったりしながら楽しみに繋げている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くは1年で回数も多くは出来ないが、外への誘導は常日頃行い、下見に行くことで、洋式便所などの確認を行い、外出の機会を多くしている。車椅子の人が多くなり、歩ける人が中心になりやすい。	多目的室からテラスへの出入り口は段差がなくいつでも外に出られるので、園内の庭の散歩や外気浴ができるよう支援している。家族の協力を得て、自宅に泊りがけで出かけた後、外食に出かけるなどして外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はある程度家族と話し合い、持てる人は持っている。多くの金があるとなくなったときの混乱があるので、一定金額にしてもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望すればかけることはしている。手紙はほとんどの人が書ける状況になく本人が塗り絵など家族に送ったりしている。言われた言葉などは代わって手紙でお知らせしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節を感じられる様に、壁などに風物画をスタッフが工夫して飾って今の季節が分かる工夫をしている。車椅子の人が多いため、安全に離合出来る様にしている。	食堂と多目的室(居間)がはっきり分かれており、テレビを見たり、会話を楽しんだりゆっくりくつろげる環境が保たれている。廊下や壁の季節を感じられる飾りつけや天窓の日よけのための飾りつけなど工夫し、居心地のよい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やプレイルームでゆっくり話し合う場所を確保している。食堂でくつろがれることが多い。一人になりたいときは部屋で過ごされる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族へお願いするが、新品の物が多く、馴染みの物を持って来られる方が少ないが、仏壇などは毎日ごはん、水は取り替え、一緒に手を合わせる機会を設けている。	家族の写真や家具、仏壇など本人や家族の思いが込められたものを持ち込み、毎日、写真を見たり、仏壇に手を合わせたりすることが日課となり、穏やかに過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドが上下したり、本人が安定して過ごせるようにしてある。自分の着物など分かる様に名前を表記させ、取り出しやすい工夫をしている。ソファは硬いものと柔いものを用意している。			